

市長の伊賀じまん

—「鳥袞」飾り瓦のおもしろさ—

とりぶすま



皆さんは、鳥袞をご存じですか。鳥袞というのは日本家屋特有の特殊な瓦で、棟の両端や下り棟の先に、ラップ状についている丸瓦のことです。鬼瓦の上部に取り付けられていて、もともとは鬼瓦に鳥が止まったり糞をかけたりしないように、鳥が休む場所という役割があったようです。

武家屋敷の鳥袞では、その家の家紋が表されていることもあります。以前は伊賀の商家や一般の家屋にもあり、軒の連なりの両端で空に向かう鳥袞は、りんとした佇まいに風情がありました。

最近では、^{しょうしや}瀟洒な鳥袞よりも立派な鬼瓦が喜ばれているようで、細工の施された大きな鬼瓦を見かけることもあります。以前は多くの家屋に鳥袞が見られました。

伊賀の家々の屋根は、京都や奈良と同じような緩やかな勾配の棟で、城下町の、あるいは街道筋のしつとりとした趣がありました。寺院などの鳥袞は建物の大きさに合わせて立派なものがついていますし、



▲市内のあちこちの屋根に見られる鳥袞。写真1・2・4：市内の民家・店舗 写真3・5：国史跡旧崇広堂

武家建築の鳥袞には風格が感じられますが、一般の家屋では繊細な鳥袞が棟を守っていて、軒の連なりに合わせて、鳥袞が連なる様子が見られました。

鳥袞の下にあるのはたいてい鬼瓦ですが、鬼瓦にもいろいろあり、さまざまなデザイン、意匠性が楽しめます。目線をいつもより上にあげて、鬼瓦や飾り瓦のおもしろさを訪ね歩くのもいいのではないのでしょうか。さて、皆さんのお住まいの屋根に、鳥袞はあがっていますか。

伊賀市の文化財 83

市指定有形民俗文化財
猿野の祇園踊り図絵馬

岡林の花踊り図絵馬
(葦神社・上阿波)

(都美恵神社・柘植町)

伊賀地域では、以前は50を越える地区で鞆鼓（かんこ、かっこ）と呼ぶ太鼓を胸につけて踊る「かんこ踊り」が、神社の祭りに奉納されてきました。現在は、日置神社（下柘植）、陽夫多神社（馬場）、比自岐神社（比自岐）、勝手神社（山畑）で行われ、それぞれの踊りが無形民俗文化財に指定されています。

一方、今は途絶えた踊りであっても、当時の様子を示す資料が残されていて、葦神社、都美恵神社に奉納された絵馬がこれにあたります。葦神社の「猿野の祇園踊り図絵馬」は、縦112.2cm、横190.3cmで、猿野踊子連中が、大正10（1921）年に奉納した踊りの様子を絵馬にしたものです。左下隅には京都四条派の著名な画家である石川景雲の落款が見ら



▲猿野の祇園踊り図絵馬



▲岡林の花踊り図絵馬

文化財課
☎ 47・1285 FAX 47・1290

これら2面の絵馬は、今年3月27日に新たに伊賀市有形民俗文化財に指定されました。

れ、絵画的にも優れたものです。境内で踊りを奉納する踊子と神官、中央に据えた大太鼓4基を太鼓打ちが叩き、その周囲を歌出し、踊子、笛吹が囲む構成は、勝手神社の神事踊と似ています。

都美恵神社に奉納された「岡林の花踊り図絵馬」は、縦59.2cm、横95.5cmで、昭和23（1948）年10月1日の踊りの様子を描いたものです。2列に並ぶ踊子6人、踊子の前後に歌出しが各2人、その傍らに法螺貝（ほらがい）2人、さらに鬼、道化といった配役が描かれています。額縁には、踊りの沿革、目的、配役、順序、種類が記されています。